

1. 連結セグメント別 2004年度業績実績 (対前年実績)

(単位:億円)

	2004年度 実績	2003年度 実績	増減	増減率	メモ
売上高	3,886	3,407	479	14.1%	化学品部門 メタノール・アンモニア系
化学品部門	2,307	1,951	355	18.2%	メタノール系は原料メタノール価格高値安定により誘導品を含めて増収。ホリオール販価アップで大幅増収増益。 MMA系は好調な需要により販売価格上昇、一部償却費負担軽減もあって収益大幅改善。アンモニアも高値で推移。
機能製品部門	1,392	1,282	110	8.6%	キシレン系 原料キシレン高騰したが、市況製品は原料に連動して販価上昇。
その他部門・消去	187	174	13	7.6%	パラキシレン系は需要好調により採算改善するとともに、副生粗ベンゼン価格の高騰で上振れ。 ポリキシレン-フタル酸は海外需要の好調で市況回復も、十分な損益改善には至らず。
営業利益	309	149	159	106.8%	特殊芳香族は堅調に推移。フタル酸は需要好調で増産。北米のMXDIO生産設備完成。 工業薬品系
化学品部門	113	33	80	242.2%	過酸化水素は新規工業用途・無塩素漂白用途で需要増。トリアジン向自消が外販となり増収。価格水準も維持。
機能製品部門	178	101	77	76.5%	機能製品部門 エレクトロニクス向け化学品（超純過水、ELMクリンなど）は新規納入先獲得もあり、海外拠点も含めて増収。 インフラは原料価格の高騰を売価転嫁し、好調な需要を受けて増収増益。TPACほか関係会社も好調に推移。
その他部門・消去	18	16	3	19.3%	電子材料は、デジタル機器関連等の好調を受け数量増加し、原材料費アップも吸収し、エレクトロニクスを含め増益。 エーゼスは国内食品向けは天候不順や自然災害等の影響を受け不振。輸出と食品用途以外は伸張り、
営業外損益	69	39	29	73.8%	原価低減もありやや改善。 情報機能材事業は撤退。カーペット膜事業は05年4月に合併会社に移管。
持分法投資損益	118	92	27	29.2%	酵素・補酵素類では、エソガ 14Q10が需要急増で増収。
金融収支	16	18	3	-	持分法投資損益 メタノール価格の高騰により、対前年比で海外メタノール会社は増益。インフラ2社、JSPグループも順調。
その他 営業外損益	34	34	1	-	
経常利益	377	189	188	99.6%	
特別利益	6	13	7	51.6%	2003年度：特別利益13億、電子材料事業構造改善費用 24億、固定資産処分損 12億など 2004年度：特別利益6億、研究所再編費用 24億円、情報機能材事業構造改善費 21億円
特別損失	90	52	39	74.8%	電子材料事業構造改善費用 11億、固定資産処分損 15億、探鉱費 12億円など
税金等調整前当期純利益	293	150	143	-	
法人税、住民税及び事業税 法人税等調整額	49	36	13	-	
少数株主利益または損失	11	8	3	-	
当期純利益	233	106	127	-	

2. 連結 2004年度 貸借対照表(対 前年度末実績)

(単位: 億円)

	2004年度 期末	2003年度 期末	増減	増減率	メモ
現金及び預金	246	246	1	0.2%	
受取手形・売掛金	1,122	970	152	15.6%	増加理由: 売上高の増加など
有価証券	50	70	19	27.7%	
棚卸資産	512	494	18	3.7%	
その他流動資産	154	138	16	11.5%	
< 流動資産 計 >	2,084	1,918	166	8.7%	
有形固定資産	1,537	1,619	82	5.0%	} 固定資産の減少理由: 設備投資(186億円)、原価償却(194億円)・除却・売却等(87億円)他
無形固定資産	37	36	1	2.2%	
投資等	1,288	1,179	110	9.3%	増加理由: 持分法会社の持分剰余金増等
< 固定資産 計 >	2,862	2,833	29	1.0%	
資産合計	4,946	4,751	195	4.1%	
支払手形・買掛金	758	690	67	9.8%	
有利子負債	1,671	1,843	172	9.4%	MGC 103億円減、連結子会社 69億円減
その他負債	412	349	63	18.0%	
< 負債 計 >	2,841	2,883	42	1.5%	
< 少数株主持分 >	72	63	9	14.1%	
資本金・資本剰余金	775	775	0	0	
利益剰余金	1,249	1,046	203	19.4%	増加理由: 当期純利益 233億円
土地再評価差額金	2	2	0	0	
その他有価証券評価差額金	118	91	27	29.5%	
為替換算調整勘定	72	71	1	1.4%	
自己株式	39	38	1	2.0%	
< 資本の部 >	2,033	1,805	228	12.6%	株主資本比率 当期末 41.1% 3.1ポイント上昇
負債及び資本合計	4,946	4,751	195	4.1%	

3. 2004年度 連結キャッシュフロー (対 前年度末実績)

(単位: 億円)

	2004年度	2003年度	増減	メモ (2004年度の主な内訳)
現金・現金同等物 期首残高	304	337	32	
営業活動によるCF	291	197	94	税前利益293億円、持分法利益 118億円 減価償却費194億円、運転資金 101億円 (売上増など)
投資活動によるCF	156	80	76	設備資金 150億円、投融資資金 5億円
財務活動によるCF	165	143	22	借入金・社債減 131億円、配当金支払 33億円
為替換算差異 他	1	7	7	
現金・現金同等物 純増減額	31	34	2	
連結追加・除外による増減	14	1	13	
現金・現金同等物 期末残高	287	304	17	

(参考資料)

2004年度決算 説明会資料 (4/7)

2005年5月18日
三菱ガス化学株式会社

4. 各種指標推移(連結)

(単位:億円)

	03年度 実績	04年度 実績	05年度 予想	増減		増減率	
				03	04	04	05
設備投資額	125	186	240	61	54	48.7%	29.1%
(うち上期)	75	72	132	3	60	4.1%	83.1%
減価償却費	195	194	190	1	4	0.5%	2.2%
(うち上期)	98	96	94	2	2	1.7%	2.1%
研究開発費	105	107	110	2	3	1.9%	2.8%
(うち上期)	55	55	55	0	0	0.0%	0.0%
人員 (年度末時点)	4,537人	4,426人	4,383人	111	43	2.4%	1.0%

メモ(人員): 03 '04 人員減少は主に単体による。

	03年度 実績	04年度 実績	05年度 予想	増減	
				03	04
一株当り 当期利益	22.9円	50.4円	54.1円	27.5円	3.7円
ROA (総資産経常利益率)	4.0%	7.8%	7.6%	3.8pts	0.2pts
ROE (株主資本経常利益率)	11.0%	19.7%	17.7%	8.6pts	2.0pts
配当額 (うち上期)	4.0円 0.0円	6.0円 2.5円	7.0円 3.5円	2.0円 2.5円	1.0円 1.0円

5. 経営環境

	2003年度実績		2004年度実績		2005年度予想		メモ
	1~6月	7~12月	1~6月	7~12月	1~6月	7~12月	
メタノール市況 (\$ / MT)	250~260	230~240	220~240	240~260	270~290	240~260	

	2003年度実績		2004年度実績		2005年度予想		メモ
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	
原料キシレン 公示価格(円/kg)	45	47	59	67	68	68	
為替 (円/ \$)	113		108		105		2003年度 上期:118円、下期:108円 2004年度 上期:110円、下期:105円 2005年度 上期:105円、下期:105円

銅張積層板/BTL樹脂等 売上高指数推移	2000年度		2001年度		2002年度		メモ	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期		
	100	85.4	48.2	50.9	53.2	52.7		2000年度上期を100とした場合の指数表示
	2003年度		2004年度		2005年度 予想			
上期	下期	上期	下期	上期	下期			
61.8	74.4	86.6	72.9	85	82			

6. 連結 セグメント別 2005年度 業績予想 (対前年実績)

(単位:億円)

	2005年度	2004年度	増減	メモ
	通期予想	通期実績		
売上高	4,050	3,886	164	2004年度為替レート 108円/\$、2005年度為替レート 105円/\$
化学品部門	2,420	2,307	113	化学品部門 メノール・アソミア系：メノール市況は下期軟化を見込む。誘導品の採算は04年度基調継続。
機能製品部門	1,442	1,392	50	MMAは償却費減少、合理化で改善見込み。 キリン系：原料高値継続を見込むが、市況製品の採算悪化を想定。
その他部門・消去	188	187	1	イソフタル酸は増産。米国MX対印本格稼働。フタル酸下期1系列停止し、OX減産。 工業薬品系：過酸化水素の需要は引き続き堅調。
営業利益	300	309	9	機能製品部門
化学品部門	110	113	3	合成樹脂：PCは数量増加も価格軟化を想定。POMは中国J/V品扱い1.9万トン増も連結対象外。 電子工業用薬品類：ELMケ-ンは国内・米国向けに出荷量増大。韓国、台湾は横ばい～厳しい。
機能製品部門	165	178	13	電子材料：通期で増収を見込むが、ILKケ-ク設備増強により固定費は増加。サーキットは高難度品増加で増益を見込む。
その他部門・消去	25	18	7	
営業外損益				
持分法投資損益	115	118	3	メノール市況は上期高値維持、下期軟化でメノール関連持分法は2004年度並み。 イプラ系も2004年度並み、キリン系は減益予想。
その他 営業外損益	35	50	15	
経常利益	380	377	3	
特別損益	40	84	44	2005年度 探鉱費 15億円、固定資産処分損 15億円、その他 10億 2004年度：特別利益6億、研究所再編費用 24億円、情報機能材事業構造改善費 21億円
税金等調整前当期純利益	340	293	47	電子材料事業構造改善費用 11億、固定資産処分損 15億、探鉱費 12億円など
法人税、住民税及び事業税 法人税等調整額	79	49	30	
少数株主利益または損失	11	11	0	
当期純利益	250	233	17	

7. 単体 セグメント別 2005年度 業績予想 (対前年実績)

(単位:億円)

	2005年度 予想	2004年度 実績	増減	メモ					
売上高	2,950	2,817	133	売上高要因分析			対前年度		
					04年度	03年度	増減	数量要因	価格要因
化学品部門	1,831	1,774	57	化学品部門	1,774	1,495	279	87	193
				メタ・アンモ系	766	664	103	47	55
				キシレン系	852	667	185	46	139
				その他工業薬品	156	164	8	7	1
機能製品部門	1,094	1,016	78	機能製品部門	1,016	885	130	72	58
				その他部門	27	26	1	1	0
その他部門	26	27	1	合計	2,817	2,406	411	160	251
営業利益	175	184	9						
営業外損益	25	17	8						
経常利益	200	201	1						
特別損益	30	76	46						
税引前当期純利益	170	125	45						
法人税、住民税及び事業税 法人税等調整額	40	20	20						
当期純利益	130	104	26						

8. 連結カンパニー別 2005年度 業績予想 (対前年実績)

(単位: 億円)

	05年度			04年度 実績	増減	協創2005計画 05年度	メモ
	上期予想	下期予想	通期予想				
売上高	2,000	2,050	4,050	3,886	164	3,630	天然ガス系化学品カンパニー 2004年度実績 (対2003年度) メタノール高騰も誘導品を含め販価上昇により採算維持、改善。MMA黒字化、ポリオール、エングラムQ10も需要好調で大幅増益。原油高で原油他資源販売も好調。持分法利益も改善。
天然ガス系化学品カンパニー	523	547	1,069	1,052	18	976	2005年度予想 (対2004年度) メタノール価格上期270~290ドル、下期240~260ドルで利益計画。持分法利益は04年度並み。 誘導品の基調は変わらない。MMAは償却費7億減。
芳香族化学品カンパニー	560	542	1,102	1,051	51	863	
機能化学品カンパニー	469	525	994	926	68	901	芳香族化学品カンパニー 2004年度実績 (対2003年度) 原料キシレン高騰も、需要好調で汎用品の採算改善。ベンゼン高騰により増益。特殊品は安定成長。
特殊機能材カンパニー	265	269	534	522	12	580	2005年度予想 (対2004年度) 原料キシレンは前下期並み価格継続を見込む。前下期67円/kg、05年度68円/kg PX/PTA、OX系等市況品の採算悪化を見込む。ベンゼン価格も下落前提。
コーポレート等	184	167	351	336	15	310	米国MXナイロン稼働、イソフタル酸増産、下期フタル酸1系列停止し、OX減産。
営業利益	130	170	300	309	9	230	機能化学品カンパニー 2004年度実績 (対2003年度) 過酸化水素系は需要増加、原価低減で増収、増益。合成樹脂は原料高騰も需要好調で大幅改善。
天然ガス系化学品カンパニー	32	41	73	67	6	56	2005年度予想 (対2004年度) 過酸化水素は数量増加、価格前期並を見込む。EL薬品はELMクリーン他で数量増加。
芳香族化学品カンパニー	35	33	68	78	10	60	PCは数量増加も価格軟化を想定。POMは中国J/V品扱い1.9万トン増も連結対象外。 連結子会社、関連会社は概ね今期並みの収益は確保の見込み。
機能化学品カンパニー	27	66	94	90	4	92	特殊機能材カンパニー 2004年度実績 (対2003年度)
特殊機能材カンパニー	38	37	75	81	6	39	脱酸素剤は売上前期並みだが原価減でやや増益。電材はデジタル需要で、下期減速も大幅増収、増益。 2005年度予想 (対2004年度)
コーポレート等	2	7	9	6	3	17	脱酸素剤は数量増加だが、価格競争激化を見込む。 電材は、通期で増収を見込むが、ILKの設備増強による固定費増加。 サーキットは高難度品増加で増益を見込む。

(持分法投資利益)

(64)

(51)

(115)

(118) (3)

(51)

2004年度実績が替レート 108円/\$、2005年度想定が替レート 105円/\$